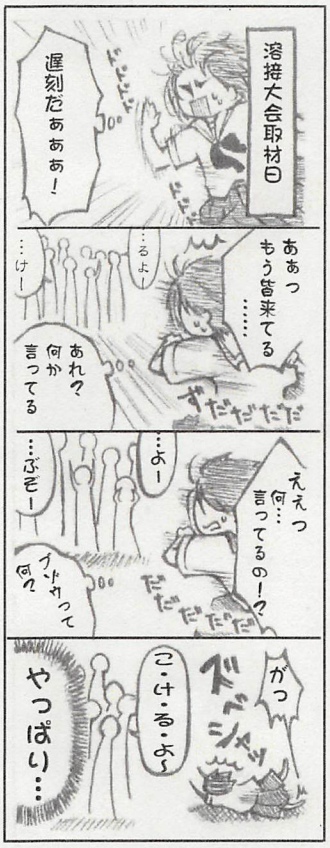
あわてるな！

てふ互生!!!

～七転び八起き？～



あ、聞こえた…けど…

全国の高校生に聞いてみた!!②

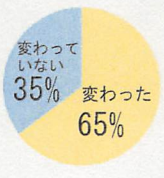
アンケート＆インタビュー

前回に引き続き総文祭。長崎や各県のことで全国の高校生に聞いてみました。

各県の名物（アンケートの一部です）

アンケート編

Q、長崎に来て、印象は変わりましたか。



印象が変わったと答えた人の方が多い。長崎といえば「カステラ」や「坂」が多い「教会」のイメージの他にも、長崎に実際に来ることでいろいろな面に触れられたようです。

―変わった理由は？

意外に都会／人が多い／食べ物が美味しい／海も山も多い／方言が可愛い

長崎に良いイメージを持っていてくれた人が多くて嬉しいです。これからも愛される長崎でありたいものです。

Q、あなたの地元の名物やおすすめの行事などを教えてください。（上図参照）

各県の特色が名物に表れていました。この他にも青森県のねぶた や富山県のカルボナーラ ラーメンなど興味を引くものばかり。気になったものは実際に調べてみてはどうでしょう。

Q、長崎でもっと知りたかったことは。

▼歴史と文化について
▼原爆について
▼食べ物について
▼人々の暮らし、方言

平和と歴史に彩られているだけあって、史跡が多い長崎。やはり歴史や原爆についてもっと知りたかったと答えた人が多くいました。中には「カステラの秘密」を知りたいという面白い答えもありました。

▲快く答えてくれました！

インタビュー編

Q、地元のおもしろい方言を教えてください。

「ごじゃっぺ」―ごちゃごちゃしてる（茨城）

「きときと」→生きがい、新鮮（富山）

「～やんなあ」→～だよね（兵庫）

―各地の方言を知ることができるのも、総文祭のおもしろいところ。

Q、あなたにとって総文祭とは何ですか。

「とても大きい交流の場」

「部活の集大成」「青春」

―一期一会の総文祭への想いが伝わりました。

総文祭・新聞部門 ドキドキわくわく交流新聞作り

新聞部門では、各県のテーマに「交流新聞」を作成しました。最初は人見知りなので初対面の人と上手く話せないだろうなとか短期間で一から新聞作りをするのは無理など頭の中は不安でいっぱいでした。ところがいざ交流新聞作りの本番になってみると、班のメンバーの人たちは自分が想像していた以上に皆温かく、緊張しつつも自分の意見をしっかりと伝えることができました。そこで初めて、自分の考えをいろんな人に発信することや個々人の意見を交換することが楽しいことなのだと実感しました。きっとこれからの将来の大きな糧になる貴重な経験ができました。

▼長崎の町を大調査だ!!

総文祭・最後の大仕事

千羽鶴献呈式

▼集まった折り鶴と、皆で笑顔!!

総文祭にて、平和を祈る鶴を全国の高校生に折ってもらい、長崎原爆資料館に寄贈する「生徒実行委員企画「鶴は折ろうで！」」八月二十七日、原爆資料館にて鶴の献呈式が行われました。

―館長の中村さんにも、高校生の平和を思う気持ちが伝わったと思います。私たち実行委員はこれが最後の仕事。総文祭を通して今までになかった涙を流し、笑い、汗だくで皆と抱き合った瞬間が一番印象に残っています。私にとって総文祭は青春そのもの。最高の夏をありがとう！

明俊さんへ、生徒実行委員六人が手渡しで鶴を献呈。式では実行委員たちが企画にかけたそれぞれの思いを語り、花田副実行委員長（聖和）は「私たちの思いも受け取ってください」と述べました。

生徒実行委員長 吉村優子さん（長崎西）

平和の大切さを伝え続けるために 八月九日に④

「遺影収集は生存者の責務だ」

▼中村武次さん（左）と平澤知二良さん（右）

六十八年前の原爆投下。その時に長工で亡くなった方々の名前は、本校慰霊碑そばの芳名板に刻まれています。しかしその名前は間違って刻まれたり、いないものもあり：死没者の氏名は依然はっきりしないまま。

そんな方々のために遺影収集活動を続けておられるのが、長工OBである平澤知二良さん（84）。数年前の慰霊祭で芳名板の間違いに気づいた平澤さんは、独自に死没者の調査を始め、二〇〇五年には同じく長工OBの中村武次さん（87）と二人で「遺影収集委員会」を立ち上げました。

「生徒二百九名、職員二十二名全ての遺影を集めるまで終わらない」そう語る平沢さんは元野球部で、非常にパワフルな性格。集めた遺影は長崎市の原爆死没者追悼記念館に奉納しているそうです。中村さんの方々が、涙を流して喜んでくれる。それが励みになる」と語ってくださいました。

シリーズ 溶接1!2!3!

溶接大会編①

朝六時に学校に来て最後まで調整を行い、中型バスでいざ佐世保の高技専へ。緊張と空腹で終始変なテンションでした。会場には既に昨日行われた一般の部の鉄板がずらりと並べられており、これから始まる大会への緊張感を更に高めます。私が出場したのはこの大会の三種目の中では一番難しいN－2Fという種類の溶接。鉄板開先加工を十五分、溶接作業三十分。外観の美しさの審査と曲がり試験できちんと曲がるかの審査が、行われます。もちろん作業中の安全行動も審査対象です。さて、いよいよ本番！（甲斐田）

▲練習練習練習……気づけば鉄板の山

小さな発見、偉大な将来!?

～子ども化学実験教室2013～

八月十七・十八・二十一・二十二日の四日間、小中学生を対象とした化学教室が行われました。今回の実験は、ペットボトルロケット制作を始め、サトウキビが原料の飴や液体窒素を使ったアイスクリームなど甘いお菓子作りも加わり、一層子供たちの興味を惹きつけるものとなりました。化学教室を体験した小中学生は「スリルがあって面白かった」「難しいところもあったけど、色々なことが知れて良かった」と大満足の様子。夏休みの自由研究もこれでバッチリのはず…。

また、手伝いをした生徒は「良い反応を示してくれたので嬉しかった」「こども達とふれあうのは新鮮だった」と、にこやかに話してくれました。

今回のように、来年も「化学」で子供達の笑顔が咲くことを願います。

▼がんばった君に賞状を

色々な実験を終えて

▲ふうぅ～～～～っ！

編集後記

さあ始まりました。今回の発行ラッシュ。「時間がない！」が癖のように言っても、時間は増えてくれない。明日はすぐそこに……現実逃避しながら完成めざした日々が、ようやく終わりを告げてくれそうです…（ホントか？）無事、この号も皆さんの手元に届きますように。